

# きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

19

2022 MARCH

奈良らしい  
景観を目指して



滝坂の道の保全活動の様子

# 柳生街道・滝坂の道を守る会

(奈良市)



副代表  
川原 繁治さん



代表  
田中 賢治さん



作業班  
くぬきはら  
まさひろ  
桐原 正一さん



写真班  
相沢 久司さん

## 歴史ある街道の自然と景観を守りたい

「春日山原始林」の世界遺産登録を機に、地元自治会の有志で設立された「柳生街道・滝坂の道を守る会」。現在は、さまざまな地域から会員が集まり、楽しみながら、多くの歴史が刻まれた街道の自然と景観を守っています。

環境が悪化していた街道を守るために設立された団体

「柳生街道」は、世界遺産「春日山原始林」の中を通り、奈良市街地と柳生を結ぶ古道。高畑町から円成寺までが「滝坂の道」と呼ばれ、石仏が数多く残されており、奈良・平安時代には、山岳仏教の場であったと伝えられています。江戸時代に奈良奉行が敷いたという石畳、次々に現れる小さな滝には風情があり、ハイキングコースとしても人気です。多くの歴史が刻まれた街道ですが、近年は観光客やハイカーの増加によって、ごみが散見されるようになり、年々環境が悪化していました。

そんな中、平成10年「春日山原始林」が世界遺産に登録されたことをきっかけに、「貴重な自然を守ろう」と上高畑町の自治会の有志5名で立ち上げたのが「柳生街道・滝坂の道を守る会」です。設立当初は、数カ月に1度、「大木が道を塞いでいる」「この場所に大きなごみが落ちている」といった状況を、奈良県や奈良市に報告することが活動のメインでしたが、その後、清掃や整備もスタート。活動の幅が広がるとともに会員数も増えていきました。

代表の田中賢治さんは新聞記事で会の存在を知ったことが入会のきっかけ。副代表を務める川原繁治さんは、実際に会の活動を目にしたことで興味



を持ち、入会。「趣味のハイキングでこの道を歩いていたら、ごみを拾ったり、落葉を掃いている方々を見かけま

した。元々、山が好きで、自然環境を守りたいという思いを持っていたので、『参加させていただきませんか』と声をかけました。地元の住民以外の会員が多いことも、この会の特徴です。

### 正会員と賛助会員が力を合わせ多岐に渡る活動をこなす

現在は、毎月1度行う「環境保全活動」に参加する正会員が20名在籍しています。また、滝坂の道との縁が深い「奈良宝蔵院流槍術保存会」の約20名が賛助会員として会に協力しています。

活動の内容は、滝坂の道の補修・清掃、下草刈りや枝払い、ツルや倒木の撤去、石段や石積みみの補修、案内板の清掃、能登川内の清掃など、多岐に渡っています。「滝坂の道は世界遺産に登録されているため、勝手な環境保全活動はできません。作業前後の状況を撮影して報告書をつくるなど、行政への相談・報告も徹底しながら、安全性と景観を

両立させる保全をめざしています」と話すのは代表の田中さん。報告書用の写真撮影を担当する相沢久司さんは、「活動中に通りがかった方々は『ごころうさま』と言ってく

ださるので、私たちは『お気をつけて』と返します。そんな言葉のかけ合いが励みになっていきます」と笑顔で話します。

毎年11月に実施される「クリーンウォーク」は、恒例行事の一つ。賛助会員も参加し、総勢約40名で、滝坂の道から若草山山頂にかけて環境保全活動を行っています。

### 和気あいあいとお互いを尊重し情報共有することを大切に！

毎月の活動の一週間前に道を下見して、作業内容や必要な道具を決めるのは「作業班」の役割。作業班の世話人、柗原正一さんは、「私は生まれも育ちも高畑町。子どもの頃は、この辺りが遊び場でした。定年後は、この山に恩返ししたいという思いで入会しました。私は最年長ですが、会員の皆さんからエネルギーをもらっているのが元気で活動できています」と、この活動が生きがいの一つになっています。

会員の平均年齢は約70歳。「課題は



後継者問題」と口をそろえますが、現役で仕事を続けながら、休日に活動に参加する50代の会員も在籍しています。会全体の活動の様子を見ても、皆さん足取りが軽やかで、まだまだ元気いっぱいの様子。「和気あいあいとした雰囲気、お互いを尊重しながら、情報共有する。この3つのことを心がけている会だからこそ、皆さん長年続けてくださっていると思います。年々観光客やハイカーが増えているので、気軽に声をかけていただけるといいな会であり続けたいです」と代表の田中さん。地元住民だけではなく、さまざまな地域から集まる会員がそれぞれの思いを持って、活動を続ける「柳生街道・滝坂の道を守る会」。今後のボランティア団体がめざすモデルケースの一つとして、さらに注目を浴びそうです。



滝坂の道の道中にて



プランターへの花植えの様子

# 萩乃里自治会

(宇陀市)



副会長  
吉田 徹さん



会長  
高見 喬宏さん



会計  
中村 弘子さん



公民館館長  
田中 正富さん

## 自主性を重んじた植栽活動でまちを彩る

「萩乃里地区」の課題を解決するためにスタートした「植栽活動」。さまざまな苦労を重ねながら、「花のあるまちづくり」を進めてきました。自治会のポリシーは、「一人ひとりの自主性を重んじること」。無理のない活動が、地域のつながりを生んでいます。

### 「路上駐車」対策として スタートした「植栽活動」

閑静な住宅地として知られる宇陀市榛原萩乃里地区。土地開発が行われた昭和50年代に設立された「萩乃里自治会」は、住みやすいまちづくりのためにさまざまな取組を行ってきました。その一つが、20年以上続けている植栽活動です。

「当時は駐車場が少なく、あちこちに路上駐車を見かけました。その頃は、若い世代が数多く住んでいて、小さな子どもがたくさんいたので、飛び出し等の事故も心配されていました。そんな時に、道沿いに花を置いたら、路上駐車しづらくなるのではないかと考えました」。そう話すのは、この活動の発案者で、現在、萩乃里自治会の会長を務める高見喬宏さん。住宅地を通る市道約600mの道沿いや、地区内に2カ所ある公園の周辺にプランターを設置し、植栽活動を始めました。当初は、花がきれいに咲かず、「土づくり」も山土に園芸用の土や肥料を混ぜるなど試行錯誤を重ねましたが、なかなかうまくいかなかったといいます。転機となったのが、活動開始の数年後、地元の設定会社から「セメント用ミキサー」を譲り受けたことでした。ミキサーを導入したことで、公園の落葉からつくった自家製腐葉土と、回収した



右：ミキサーを活用した自家製腐葉土づくり  
左：公園の清掃活動



プランターの土をほどよく混ぜることができるようになり、「良質な土づくり」が可能に。作業時間を大幅に短縮



することもでき、現在も植栽活動の大きな助けになっています。

### 着実に広がる「自主的な活動」 関わることで地域への関心も高まる

植栽活動では、春と秋の年2回、植え替えを行っています。春にはポーチウラカ、冬にはパンジーとピオラを植え、管理がしやすく、彩り豊かな花の種類を選んでいきます。副会長の吉田徹さんは、「私たちの自治会の特徴は、各活動への参加を強制しないことです。水やりや雑草を抜く作業は、『誰がこの曜日に行く』というシフトは決めていません。活動を始めた当初は総会でお願いをしていましたが、今では、多くの方が率先して行動してくださり、その輪が広がっています。『この地区を大切にしたい』という思いを持った方が増えているのは、とてもうれしいことです」と話し、長年の活動に手応えを感じている様子。公民館

館長の田中正富さんは、「自治会の活動を通じて、何事も自主的に行動することは大切だなと実感しています。前向きな人たちに囲まれていると、自分も前向きになれる。植栽活動も自分が関わることで、花の状態はいつも

気になるし、植え替えの季節も楽しみななっています。この自治会には、一人ひとりが楽しみながら続けられる活動があるので、この地区はまとまっていると思います」と話します。また、会計担当の中村弘子さんは、「自分たちが植えた花がきれいに咲いていると、晴れやかな気持ちになります。この萩乃里地区は『花がきれいなまち』として知られるように、これからも活動を続けていきたいです」と話し、会員の細やかな心配りも植栽活動には不可欠な要素となっています。

### 地域を豊かにする「つながり」 地道な活動が地域に根づく

また、年に3〜4回行う「公園の草刈り」、年に1回行う「道路・側溝の清掃活動」も、長年続けています。「初代会長をはじめ、自治会設立当初の役員さんは、『萩乃里という地区のブランド価値を上げたい』という話を常々し

ていたのです、私たちはその思いを踏襲しています。現在は、役員と、十数軒ごとに分けられた班の班長が率先して活動を行っています。植栽・清掃活動での学びを生かして、地域のために皆さんが協力し合えることを考えていけば、地域が豊かになると思います。夏祭りや図書館の運営など、これまで他の地域が取り組んでいないことにもチャレンジしてきました。住民の高齢化が進んでいるので、体操やヨガなど、年配の方も楽しく余暇を過ごせる活動も考えています」と高見さん。取材当日の植栽・清掃活動は、役員と班長を中心に集合。落葉の回収などの清掃班、花の植え替えなどの植栽班といったように、役割分担が明確にできているので、作業もスムーズに終了。活動中のコミュニケーションからは、お互いへの信頼も感じられます。自主性を重んじた自治会の活動は、住みやすい地域づくりの原動力になり、萩乃里地区にしっかりと根づいています。





環境美化委員長  
橋本 廣子さん

# 石見フラワーチーム

(三宅町)



石見駅東側の花壇の水やり・草抜き作業

## 花を通じて地域に笑顔届けたい

三宅町の玄関、石見駅を中心に十数カ所で植栽活動を行う「石見フラワーチーム」。花を愛する仲間が集まり、ともに過ごす時間を楽しみながら「花と笑顔があふれるまちづくり」に貢献しています。

花を愛する気持ちが原動力  
良い人間関係づくりが大切

旧村（本村）と新興住宅地区で構成される「大字石見自治会」は、防災・防犯・環境美化の3つの委員会が構成され、「石見フラワーチーム」は環境美化委員会内の任意の団体として活動しています。平成5年、当時の自治会役員の一人が「石見駅周辺に花を植えたい」とプラントナーを置いて花を植えたことが、活動の始まり。その2年後、自治会長が「みんなで植栽活動しよう」と声をかけ、フラワークラブが結成されました（平成23年に「石見フラワーチーム」に改名）。

現在は、石見駅前や公園など十数カ所で、夏花・冬花の植え替えを行っています。夏花は、ペゴニアやサルビア、ポーチュラカ、冬花は、葉ボタンやビオラを植え、「花のあるまちづくり」に貢献しています。他にも三宅町の町花である「あざさの花」や、高さ5m程にも成長する皇帝ダリアなど幅広い花の育成・管理を行っています。公園の草刈り・落葉集めなどの清掃活動、花の知識を得るための講習会・研修会の実施、町内各所への葉ボタンの寄贈なども行い、その活動は多岐に渡ります。環境美化委員長の橋本廣子さんは、「まちの環境を花と笑顔で彩りたい」というモットーを掲げ、長年活動を続け



右：きれいに咲く「葉ボタン」「ビオラ」とともに皆さん笑顔  
左：花壇に植えられた色とりどりの花々

できました。「会員の大半が10年以上在籍しています。皆さんが長く続けてくれるのは、いつも声をかけ合っていて、良い人間関係が築けているからだと思



います。そして、何より一人ひとり花が大好き。私が何も言わなくても動いてくれるので感謝するばかりです」。

### 活動に参加することで やりがいや楽しさを発見！

橋本さんのアイデアで始めたのが、地元の中学校と協働した取組。年に2回、生徒会が中心となって行う「中学校の花壇の植え替え」に会員も参加することで、子どもたちに花の魅力伝えていきます。

会員の一人、平岡賢一さんは、「元氣だから活動できるし、活動に参加することで元氣をもらおう。80歳を越えても、生きがいがあるというのは本当でありがたいことです。私を含め、県外出身の方も多いですが、活動を続けていると、何でも話せる仲間も増えてくるので、楽しさも増します。『この地域をきれいにしたい』という思いは年々強くなりますし、今はここが第二

のふるさとだと思っています。生き生きとしています。辰濱禎二郎さんは、丁寧な作業で会員から一目置かれる存在。「夏場は水やりが大変ですが、最近はこちらが行かなくても、誰かがやってくれるようになります。

地域ของ皆さんが花を見てきれいだと言ってくれたら、私たちの活動にも張り合いが出るし、花もきれいに咲いてくれる。この会に関われることは喜びなので、これからも続けていきたいです」とまだまだ意欲十分。今年度から活動に参加した近藤久美子さんは、「花の手入れをしていると、道行く人に『いつもありがとうございます』と声をかけていただくことが多いです。地元の方々と交流することで、元氣をもらっています」と笑顔。会員それぞれがやりがいと楽しさを持って、活動しています。

### 具体的な目標を見据えて 今後の活動にも意欲的

会員の高齢化が進み、現在の平均年齢は70代。後継者の育成が課題ですが、具体的な目標もしっかりと掲げています。「石見駅の東側は長年の活動が実

を結び、きれいに花が咲くようになりました。次の目標は西側のロータリーの花壇づくりです。石見駅は三宅町の玄関となる場所。そこを出発点として、三宅町の皆さんと協力し合いながら、植栽活動の幅を広げて、花を通して明るいまちづくりをしていきたいです」と橋本さん。また、もう一つの目標は、植栽活動によって咲いた花を道行く人にプレゼントすること。「そういう事例を新聞で目にして、私たちもこの活動をやりたいと思いました。花は人の気持ちを明るくする力があるので、子どもたちと一緒に『花を通じた地元の方々とのふれあい』も計画したいです」。活動中の会員の皆さんは笑顔が絶えず、この活動を楽しんでいることが伝わってきます。通りがかった高校生が「お花きれい！」と会話していたのも印象的です。花を愛する会員が集まる「石見フラワーチーム」の植栽活動は、これからも地元の人に多くの笑顔をお届けすることでしょう。



# みんなで取り組む！「なら四季彩の庭」づくり



## 地域の庭づくりをサポート！ なら四季彩の庭づくりアドバイザー制度

景観デザイン、造園、植物の育成・管理等について、実務的・専門的知識を有する方々を「なら四季彩の庭づくりアドバイザー」として派遣します。

### 対象となる事例

植栽等による魅力ある地域づくりを目的として開催する講習会や勉強会等

### 派遣対象者(申請者)

自治会・学校・事業者・地域グループ等、地方公共団体  
申請方法等詳細については下記HPをご覧ください

なら四季彩の庭



専用ホームページ▶▶▶



### 公式Instagram はじめました！

皆さんの庭づくりを  
「#なら四季彩の庭づくり」  
で発信しましょう



【アカウント名】  
nara\_shiki\_irodori

## オリジナルステッカー配布中！



「なら四季彩の庭」  
づくりステッカー

ご自宅や、勤務先など誰もが見ることができる場所を花や緑で彩りましょう。

プランター等に貼っていただけるオリジナルステッカーを配布しています♪ご希望の方は『e古都なら』の「なら四季彩の庭」づくりステッカー申込フォームからお申し込みください！

申込みフォーム QR コード▶▶▶



お問い合わせ

県環境政策課

電話 0742-27-8732 / FAX 0742-22-1668

## 令和3年度きれいな奈良県づくり功劳賞受賞者

「きれいに暮らす奈良県スタイル」行動計画に基づく各主体の実践活動を促進し、全県的・継続的な県民運動を誘発・普及していくため、行動計画の推進に貢献している団体等に対して「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会会長(奈良県知事)から令和4年2月9日に表彰されました。

### 受賞者一覧(3件、敬称略)

#### 【川のきれい化部門(1件)】

・向井 鐵男

#### 【景観づくり部門(2件)】

・西の山園芸クラブ

・葛美住宅自治会 せせらぎ会



〈歴史的景観部門〉郵便名柄館 (一社)吐田郷地域ネット、(公財)通信文化協会郵政博物館 副館長 井村 恵美、(株)ニホンディスプレイ

〈沿道部門〉てのべ たかだや (株)マル勝高田商店、graf (有) デコラティブモードナンバースリー、染工房シュシャ、quro products

〈商業地、駅周辺部門〉蔵の宿 櫻林亭 桜井まちづくり (株)、(株)オフィスジーアイジー、(株)中尾組

〈一般地域部門〉ヨツギテクノ株式会社 ヨツギテクノ (株)、森田昌司建築空間設計 代表 森田 昌司、(株)森下組

〈みんなでいいね!なら部門〉cherry's spoon (株)淀屋 cherry's spoon、Cozy Planning (株)、(株)シンコー